



君と僕のワルツ
kimi to boku no waltz



【注意書き・設定】

吸血鬼パロのため、吸血表現・血液描写がありますので
ご注意ください。



〈キリト〉

森の奥にある館に住んでいる吸血鬼で、
とっても長生きしてる。吸血鬼としての
能力も強くユージオを吸血鬼にした本人
だが、しぶしぶだったため罪悪感がある。
最近ユージオが暴走気味でどう抑えたら
いいか頭を悩ませている。

〈ユージオ〉

元は小さな森で木こりをしていた人間。
ある事がきっかけでキリトに吸血鬼にして
もらいそこからずっと一緒にいる。吸血鬼
になってキリトと過ごすようになってから
自分が生き生きしていると実感している。
いろんな意味で。



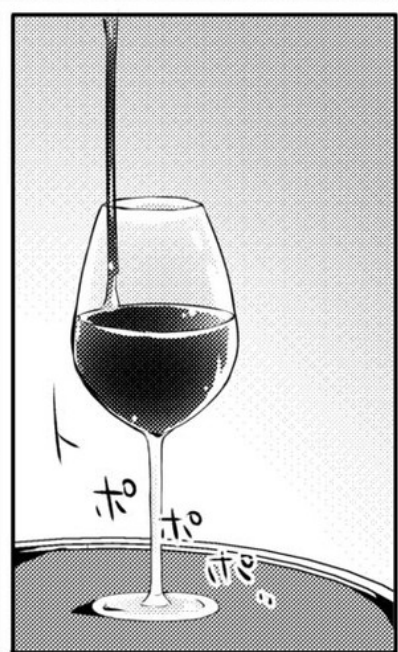
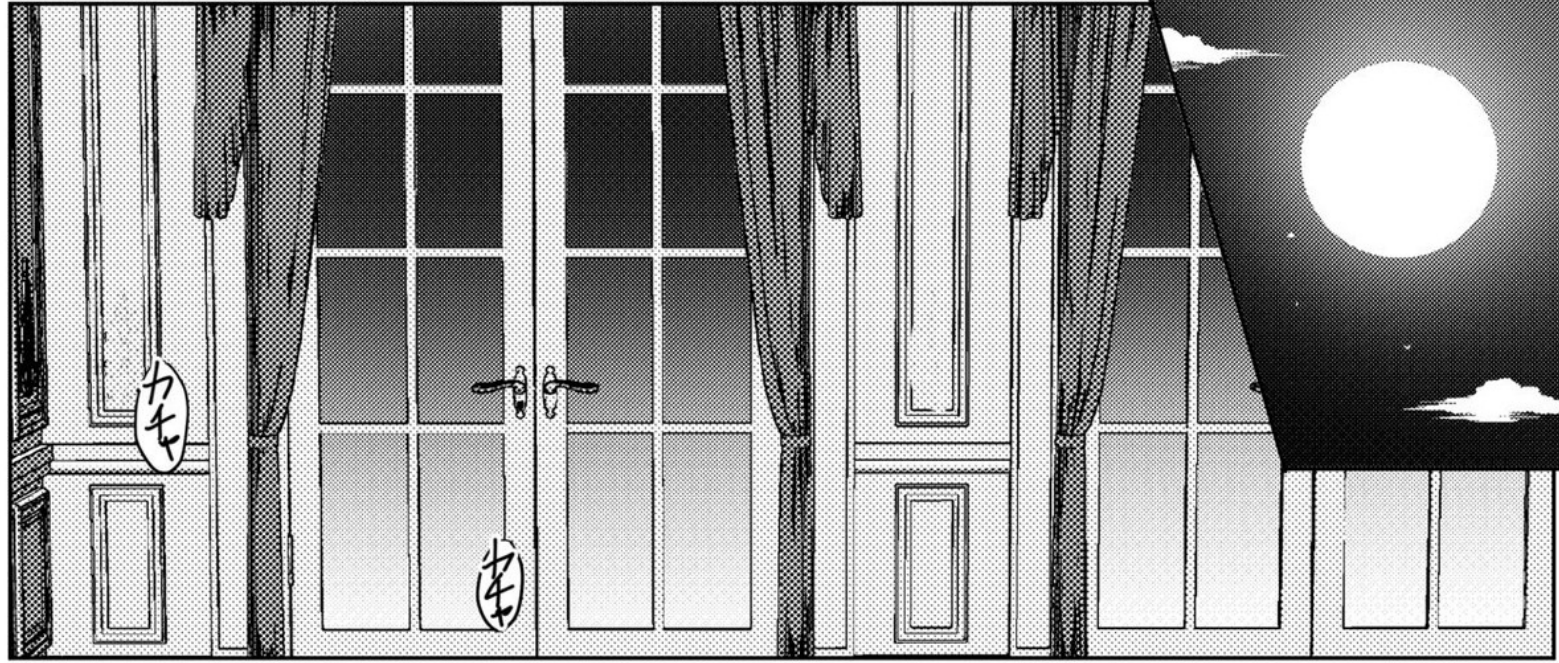
目次*

P4～ 夜明

P39～ Chiyako

Guest

P55～ こらたる





なんだコレに興味あるのか？

ユージオ

いや

たまには違うものを飲んでみたくならないのかなって



ん…

まあ、森にいる動物の中ではダントツで美味いとは思うけどな

俺は普通の食事も楽しいし怪我しない限り血液が必要なのわけじゃないけど…

たまには多少飲まないといけないからな

吸血鬼だし？



まあコレの味は言うなら
こくのあるシチューだな

クサミもないし

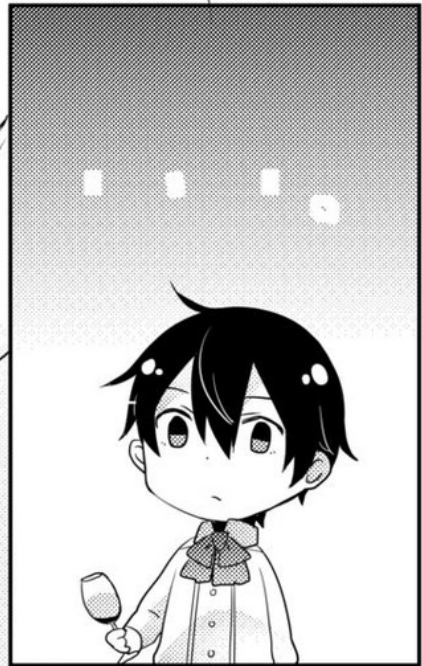
ふーん

そういう味なんだ



何だよ
ユージオくん

人が説明したのに
その興味のなさそ
うな返事は



なんなら
ユージオも試しに
飲んでみるか？

美味しいぞ

ほん。



飲んでみれば
いいのに……

そうか？

いや 僕は遠慮
しておくよ



キリト

キリトから……
血の匂いがする……

甘い匂い



美味い



け……



キリトの血を
飲みたいな……？

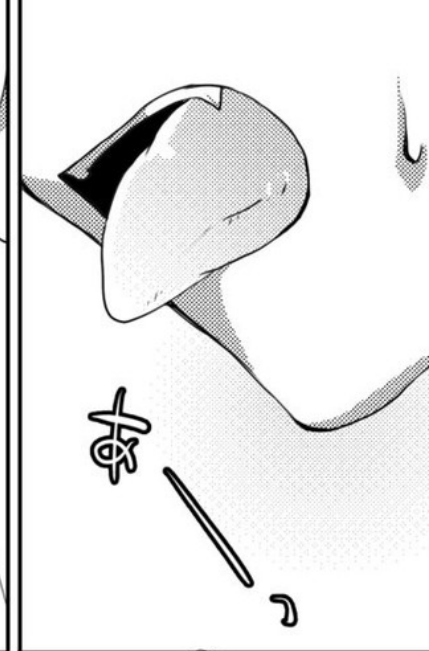


僕は

ゆーじ……

はあ……

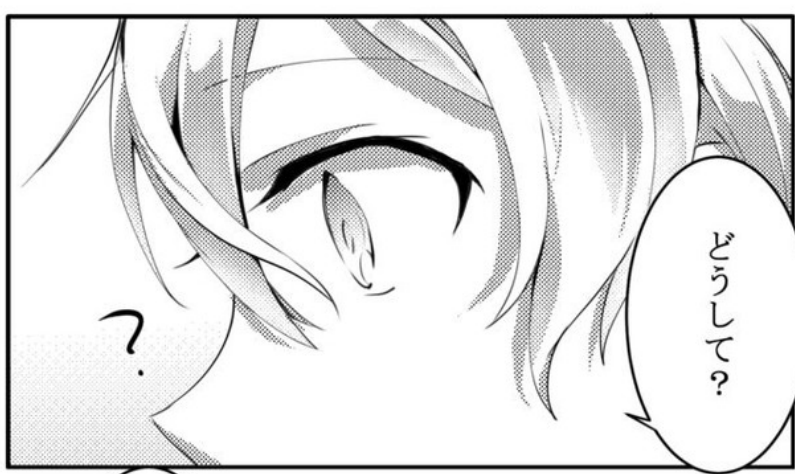




いただきます

っ
ビクッ

す



どうして？



ユージオっ
いつもそれ止めろって
言ってるだろ！

紙めるが、



どうしてって
痛いし…

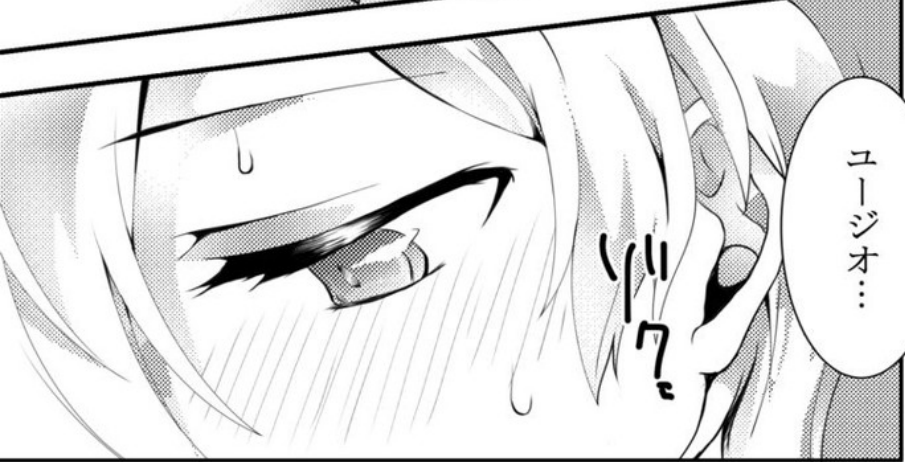


うっ

違う！
血を吸うのに
そういうのは
必要ないって



興奮するから？



キリトと出会ったのは
数十年前だ

その日 木こりとしての役割を
果たすためにいつも通りに森へ
と入った僕は

そこで漆黒の瞳を持つ彼に
出会った

その瞳はまるで――

……っ

何で人間が
ここに……!?

――
綺麗な夜空だ

クッ
クッ



.....
おれの、名前は……



僕はユージオ
君の名前は
なんて言うんだい？



噂でしか聞いたことが
なかった吸血鬼

でも何故か僕は
自然と恐怖もなく
彼に話しかけていた

後から聞いた話では
キリトはあの時僕の
記憶を消そうとして
いたと聞いた

キリ、ト……



また来たのかお前よ

でもその出会いから
何故か僕は入ることが
できる様になっていた



やま。

森には結界が張ってあり
招かれない限り中には
入れないらしい



それから僕は
たびたび森に入って
キリトと話すようになった

始めは拒絶していた
キリトも何回も現れる僕に
諦めたのか、傍に寄っても
嫌がらなくなり

僕とキリトの距離は
縮まっていった



お互いの存在が
心地よくなった

そんな時だった

もうこれで17人目だ
感染が拡大する一方だぞ！

まだ薬は
届かないの!?

村で伝染病が広まり
多くの人が死んだ

僕も

感染した内の
1人だった



僕は……
ここで死ぬのか？

せめて

もう一度
君に



キ……

ハッ
ハッ



リト……

……っ



ユージオ……
選んで欲しい

このまま死ぬか
それとも
俺と一緒に――

ホッ

吸血鬼の血
キリト

それを受け入れることで
人間でなくなり永い刻を
生きるようになることも
知っていた

「キリトと一緒に
いられるなら」

僕に迷いは
なかった

はあっ

ユージオ…

ご馳走様

キリトの
美味しかったよ

はい

んっ…

ユージオさ

あんまり飲んだ後に
触らないで欲しいんだ

えっ？

…ああ

もしかして
感じちゃった？

あっ





なっ…!!

…キスだけで
気持ちよくなっちゃった?

ふふっ



昔はあんなに
可愛かったのに…

ごめんごめん
別にからかった
訳じゃないよ



最近調子乗りすぎ
だぞユージオ!!

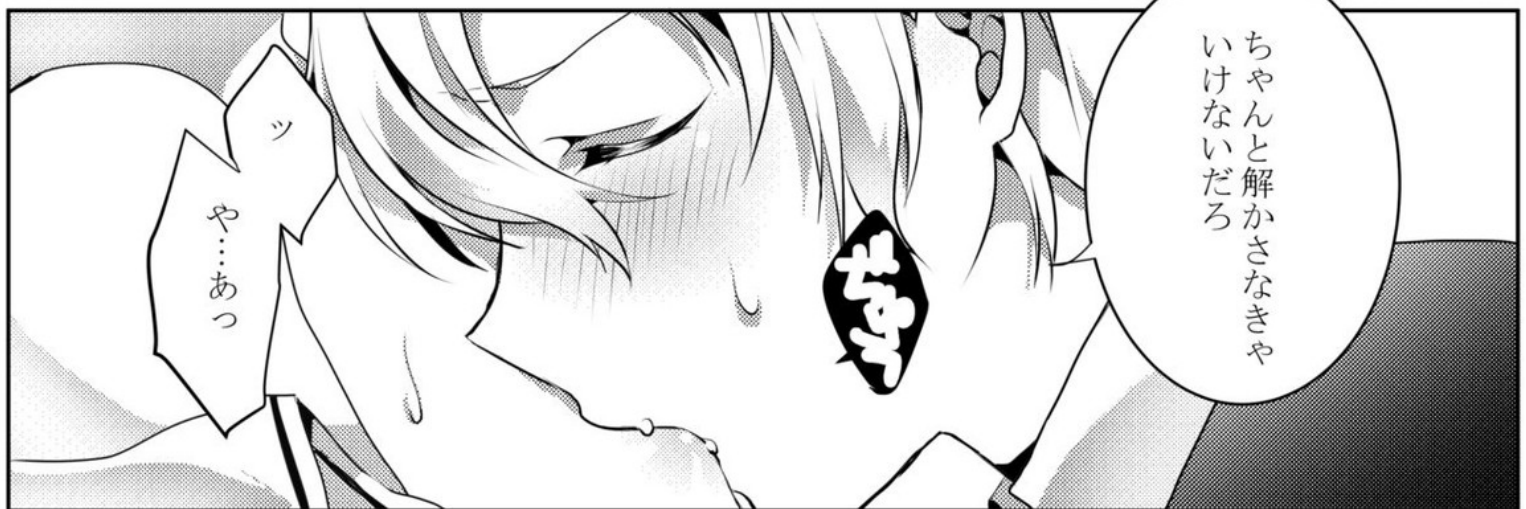
ボクッ



待ってて

今キモチヨク
してあげるね…?

七っ













っ…ありがとうキリト
もぅいいよ

んっ…



あ

挿れるよ

あ…
ひ…

あぁ
ひっ





でもキリトも
気持ちいいだろ？

そっぴう風に



もう…急に締めつけ
ないでよキリト



言うなよ……ッ



よっしよっし

えっ



あ

なったんで
こんな、形…

ひ……ッ
あ!?

はあ、

…この体勢だとキリトの
深いところまで入るね

この体勢

ズ
ン
ン

ああッ



ユージオのが

ひっ
う

キリトっ…

ふあッ
深…いっ

奥まで……!

ほらキリトの一番
奥まで入っちゃう
よッ…!!

ズ
ン
ン

ズ
ン
ン

ズ
ン
ン





キリト...





ごめん
まだ
収まらないや...







気持ちよくて
止まらない...!

ごめん
キリトツ...

キリトツ

あーい

あーい

あーい

ガッ

ガッ

あ



美味しい...

ユージオ...っ

あーい

あーい

グワッ



君のナカに
出すよ...!!

キリトツ...

あ

あーい

あーい

あ

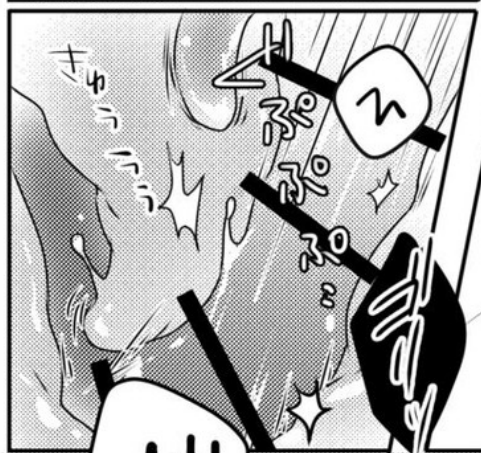
あ

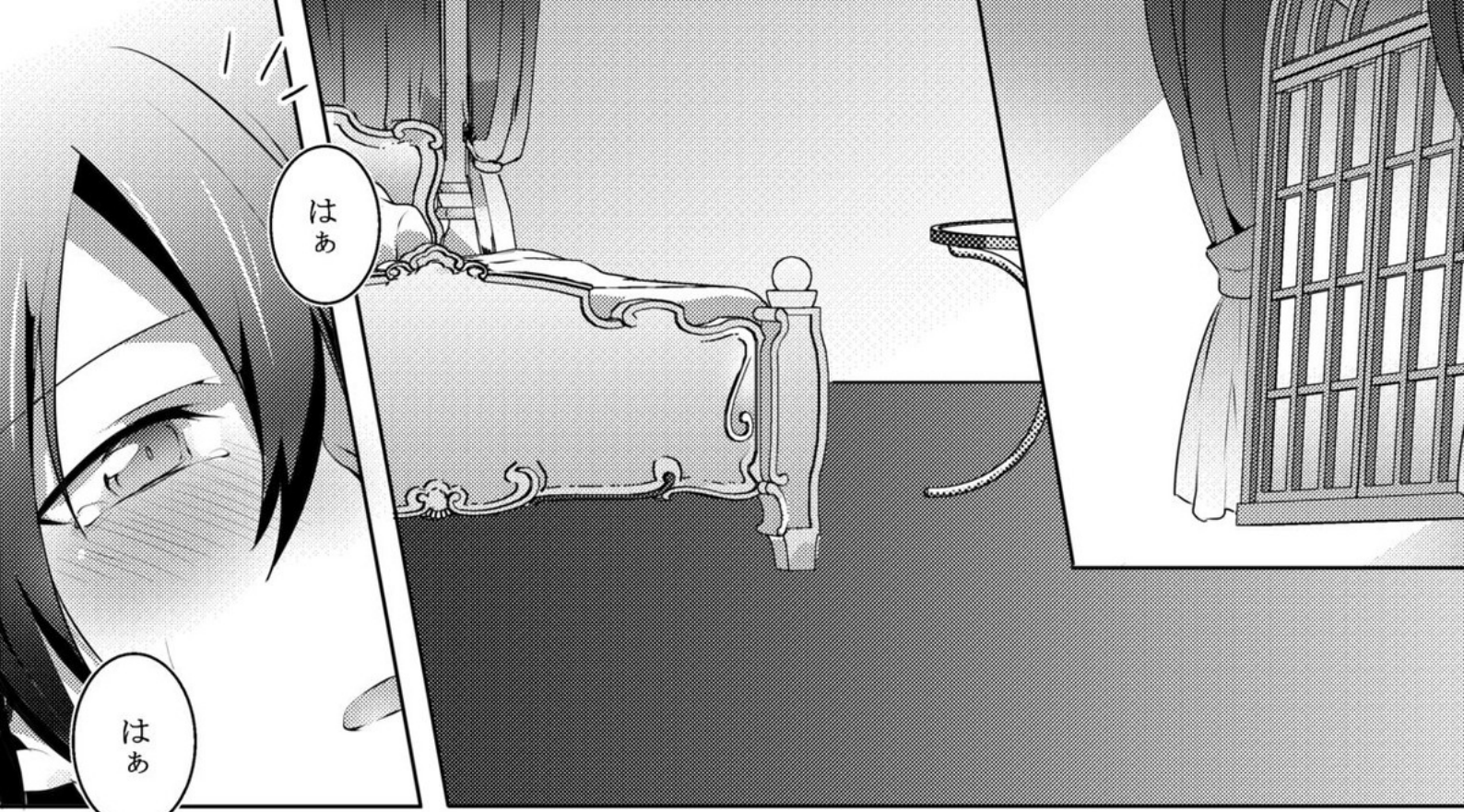
あーい



ガッ

あーい







俺はあの時、死にかけて
ユージオを失うことが恐くて
自分の吸血鬼の血を与えた

あの村で平穩に人間として
暮らしていたユージオ



原因は流行り病だったが
それすら俺が関わったせい
なのではないかと思った

永く生きる事の虚しさを
知っていたはずなのに

ユージオも同じ存在に
してしまった

もしかしたら

きっと



他の道も



キリト



まだ足りなかった？



ぽろっ



！

とすん



僕は

キリトとずっと
こうしていたいよ…



ちがっつ

ユージオ……

僕はキリトの事を何でも
知り尽くしてる訳じゃ
ないけど

君が何を考えているか
知っているよ

けれど

そんなことより

今の僕との時間を
考えて欲しいな

キリトは

僕と一緒に
幸せ？

……ああ

しあわせ、だ



……ずっと一緒に
いようね

キリト



ああ
ユージオ

お前が、望む限り

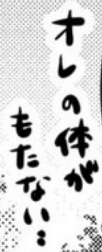


あ。

じゃあ
もう一回



それは勘弁してくれ
ユージオくん



オレの体が
もたない！